

2010年(平成22年)3月23日(火曜日)

©中日新聞東京本社2010

(日刊)

放射線

海外留学を希望する日本の高校生が、最近、減っているという。高校生の海外留学を支援しているAFS日本協会の話である。データでみると、三ヶ月以上の高校留学は一〇〇四年度の四千四百四人がピーク。〇八年度では三千百九十人となっている。日本にいる方が安全で居心地がよいと考え、あえてチャレンジしない若い人たちが増えているのでは、と関係者は危惧する。私も、日本社会全体が内向きになつてゐると思う。

しかし、私の事務所にイン



ターンやボランティアで来てくれる若い人们は、将来国連や国際的な非政府組織(NGO)で働きたい、紛争予防や地球環境保護のため活動したい、といった目的を持つ。しかも、年々増えていると実感している。きっかけはいろいろだ。近くに外国人が住んでいて海外のことに関心を持つた、青年海外協力隊の人から話を聞いた中の一人は、でもいい、きっかけをつかんでほしい、と祈るような気持ちで講演活動を続けている。(池上 清子=国連人口基

社会が内向きになつてゐるのは、刺激を受ける経験や、興味を引かれる見聞の機会が少ないせいではないだろう。ただ耳や目に入つてくるだけの情報では足りないのだ。何とかして、多くの若い人たちに、国際的な体験をしてほしいと、心から願う。私は自身、高校時代の米国留学が今のは仕事の原点にもなつていて、ほんとうに感じた。

百人聞いてくれた中の一人た、中には私は、おもい、きっかけをつかんでほしい、と祈るような気持ちで講演活動を続けている。(池上 清子=国連人口基

金東京事務所長)

東京新聞

夕刊

◆ 中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211